

大津企業景況調査報告書

(第71回)

平成27年10月～12月期 実績

平成28年 1月～ 3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成27年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	14社	70.0%
製 造 業	10社	8社	80.0%
卸 売 業	10社	7社	70.0%
小 売 業	30社	25社	83.3%
サービス業	30社	25社	83.3%
合 計	100社	79社	79.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成27年10月～12月とし、調査時点は平成27年11月16日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感の足踏み長引く 先行きやや改善

平成 27 年 10 月～12 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、全体の業況判断 DI（前年同期比）が▲10 前後で約 1 年間続いており、足踏み状態が長引いている。今四半期は▲17 と前四半期から 10 ポイント悪化した。業種別では、前四半期に前年比プラスに転じた建設業と卸売業も含めすべての業種で前年比マイナスとなった。非製造業では材料高や電気料金高等の影響で採算が回復していないためとみられ、インバウンド（訪日外国人）消費の効果は宿泊業等に限定的に表れているとみられる。

先行きの業況判断 DI は▲4 と 13 ポイント改善すると見込んでいる。業種別では、売上が大幅に落ち込むとみる建設業は悪化を見込んでいるが、円安の定着等から製造業は前年比プラスを見込み、その他の業種も暖冬で冬物消費減少が懸念される小売業を含めすべて今四半期より改善を見込んでいる。インバウンド消費も一部の業種に限られるが効果が期待されているものとみられる。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は、足踏み状態が長引く

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は▲17 と前四半期から 10 ポイント悪化した。約 1 年間 DI は▲10 前後で続いており、足踏み状態が長引いている。業種別では、前四半期に前年比プラスに転じた建設業と卸売業も含めすべての業種で前年比マイナスとなった。非製造業では材料高や電気料金高等の影響で採算が回復していないためとみられる。インバウンド消費の効果は宿泊業等に限定的とみられる。

□ 売上 DI（前年同期比）は、卸売業を除き前年比マイナスに

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前四半期の+6 から今四半期は▲13 と再び前年比マイナスに転じた。業種別にみると、卸売業がプラスの他はすべて前年比マイナスとなった。製造業は中国経済の減速が影響しているものとみられる。

□ 採算 DI（前年同期比）は、前年比やや悪化で横ばい

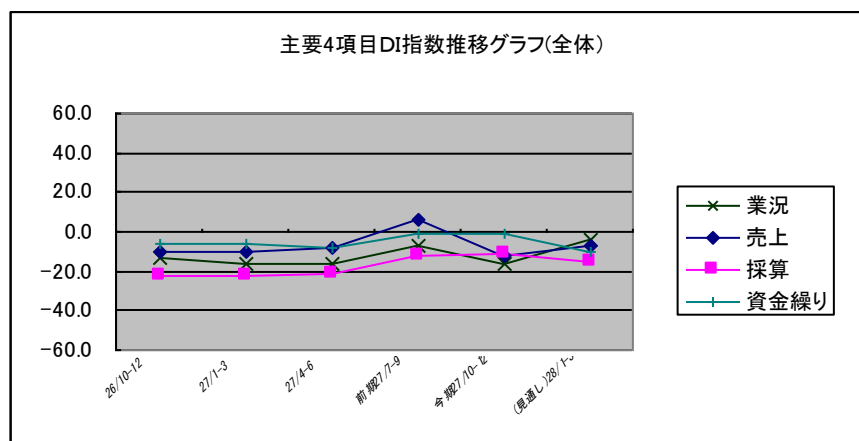
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期▲12 から今四半期▲11 と横ばいであった。業種別にみると、建設業が好転幅が縮小したが、製造業は良化し、その他の業種はほぼ横ばいであった。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は、前四半期と横ばい

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲1 から今四半期▲1 と横ばいであった。業種別にみると、建設業が悪化し、小売業が悪化幅が縮小したが、その他の業種は横ばいであった。

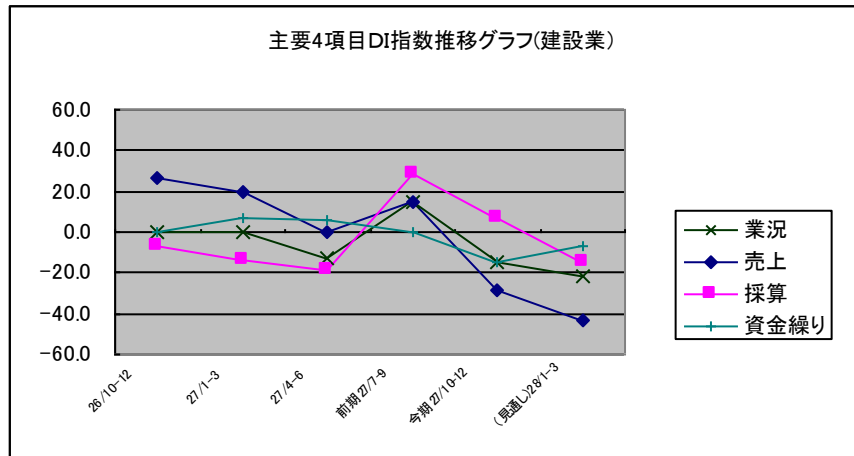
□ 従業員 DI（前年同期比）は、前年比人員不足が横ばいで続いている

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+22 が今期+23 と人員不足状態が横ばいで続いている。業種別にみると、卸売業で人員不足が強まっているが、他の業種では前四半期とほぼ横ばいで人員不足が続いている。



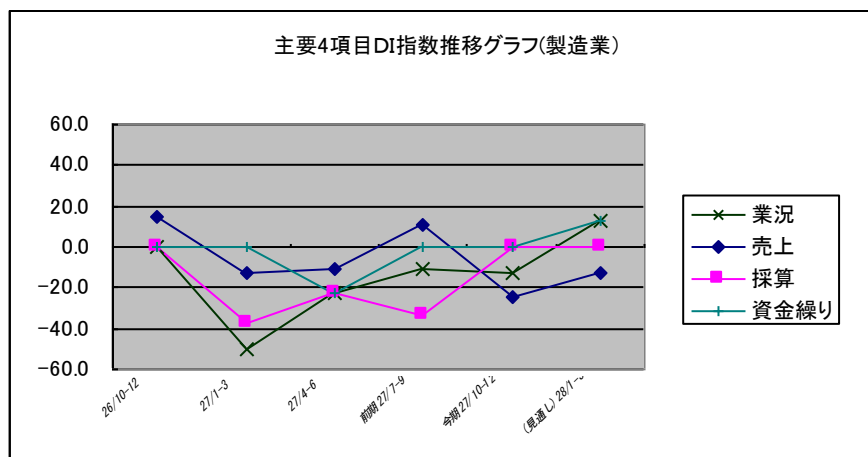
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+14 が今四半期は▲14 と大幅悪化した。個別指標をみると「売上」が前四半期の+14 から今四半期▲29 と大幅に減少し、「採算」も好転幅が縮小し、「採算（経常利益）水準」が+43→+29 と黒字企業が減少している。取引の「問合せ」も減少していることから上記の業況判断になったとみられる。



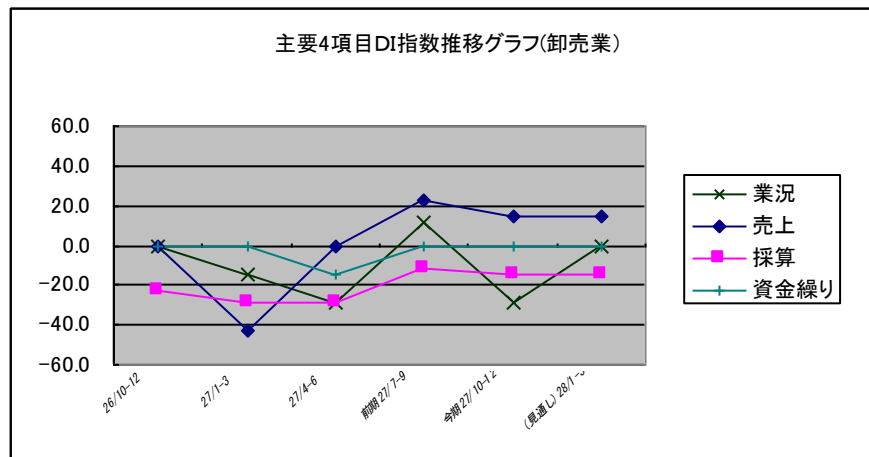
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲11 から今四半期は▲13 と小幅悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の+11 から今四半期▲25 と減少に転じたが、「採算」は前四半期の▲33 から今四半期±0 と改善し、「採算（経常利益）水準」が+11→+38 と黒字企業が増加している。中国経済の影響が一部にみられて売上は減少したが採算の改善をして上記の業況判断になったものとみられる。



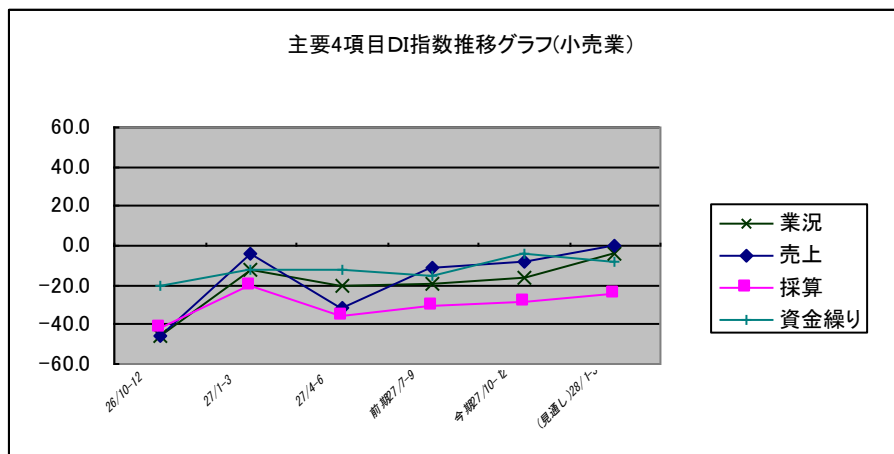
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+11 から今四半期は▲29 と再び大幅マイナスとなった。個別指標をみると「売上」は前四半期の+22 から今四半期は+14 と増加幅が縮小し、「採算」も▲11→▲14 と悪化している。一方、「従業員」が前四半期の+33 から今四半期は+43 と極めて人手不足感が強まっている。これらの状況から上記の業況判断になったとみられる。



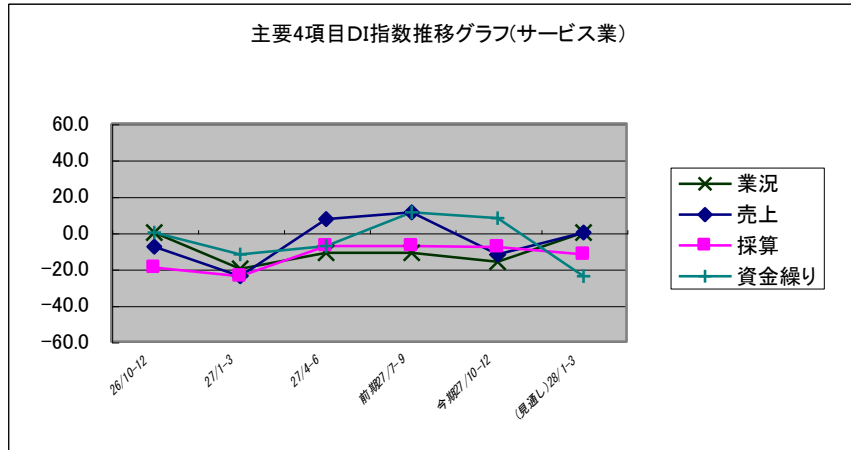
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲19 から今四半期は▲16 と悪化幅が縮小している。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲12 から今四半期は▲8 と改善し、「採算」もやや改善し、「採算水準」もやや改善した。「人員」は不足が続いているが、「取引の問合せ」が▲27 →+4 と活発になってきたことから上記の業況判断になったとみられる。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲11 から今四半期は▲16 と悪化している。個別指標をみると「売上」は前四半期の+11 から今四半期は▲12 と減少し、「採算」は▲7→▲8 と横ばい。「従業員」は人員の不足が続いている。インバウンド消費の効果は宿泊業等に限定的に表れているとみられる。



来四半期（3ヵ月後）の「業況」DIは、今四半期の▲17から▲4と13ポイント改善すると見込んでいる。

個別指標をみると、「売上」は改善するが、「採算」は悪化する。「従業員」は人手不足感がやや緩和すると見込んでいる。業種別では、売上が大幅に落ち込むとみる建設業は悪化を見込んでいるが、円安の定着等から製造業は前年比プラスを見込み、その他の業種も暖冬で冬物消費減少が懸念される小売業を含めすべて今四半期より改善を見込んでいる。インバウンド消費も一部の業種に限られるが効果が期待されているものとみられる。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は全体で前四半期から4ポイント増加して25%である。業種別にみると、製造業が最も高く50%、卸売業が43%、他は20%程度である。投資企業の投資内容の割合は、「更新投資」が46%で最も多く、「合理化省力化」は23%で、「生産力増加」は18%である。

投資方針は、「計画通り」が50%あり、「景気により計画を見直す」が40%あるが、投資内容からして、この方針は当然と考えられる。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- どの情勢を見るかで感じることは様々多様だと思う。10月に販促イベントに取り組み、固定客化をすすめた。同業他社は新聞広告で集客をされていた。どちらが良いか悪いかというよりも何を指すかで、経済情勢の見方も大きく違うと思います。(小売業)
- 来年の参議院選挙後の経済運営には関心がある。現状通り運営できるのでは必ずしも地方は良くなるとは限らないのではないか。(サービス業)
- 大企業有利の行き過ぎる規制緩和政策 (サービス業)
- リフォーム業に停滞感あり。再来年増税前に増加するか不安。(建設業)

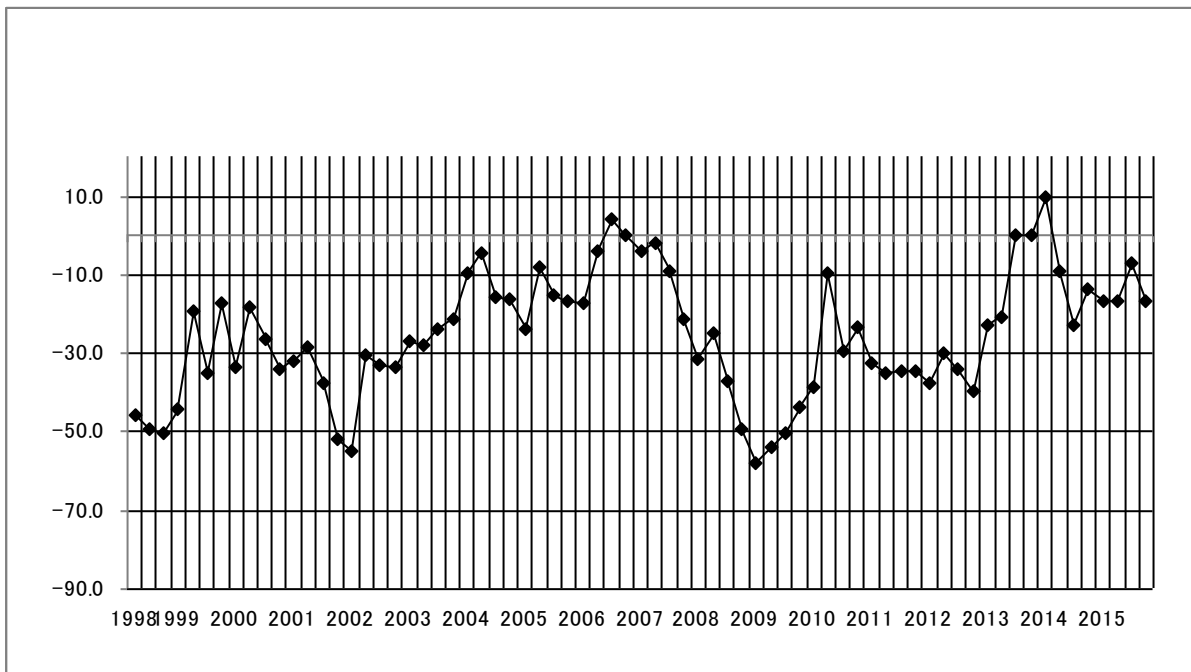
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	▲16.5	▲3.8	▲12.7	▲7.6	▲11.4	▲15.2
建 設 業	▲14.3	▲21.4	▲28.6	▲42.9	7.1	▲14.3
製 造 業	▲12.5	12.5	▲25.0	▲12.5	0.0	0.0
卸 売 業	▲28.6	0.0	14.3	14.3	▲14.3	▲14.3
小 売 業	▲16.0	▲4.0	▲8.0	0.0	▲28.0	▲24.0
サービス業	▲16.0	0.0	▲12.0	0.0	▲8.0	▲12.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	12.7	2.5	▲12.7	▲13.9	22.8	19.0
建 設 業	28.6	0.0	▲28.6	▲21.4	14.3	14.3
製 造 業	37.5	37.5	12.5	12.5	25.0	12.5
卸 売 業	14.3	▲14.3	▲28.6	▲14.3	42.9	28.6
小 売 業	▲12.0	▲8.0	4.0	▲12.0	24.0	24.0
サービス業	20.0	8.0	▲24.0	▲20.0	20.0	16.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全体	▲1.3	▲10.1	0.0	▲3.8	5.1	1.3
建設業	▲14.3	▲7.1	▲14.3	▲14.3	7.1	7.1
製造業	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲4.0	▲8.0	12.0	4.0	12.0	4.0
サービス業	8.0	▲24.0	▲8.0	▲12.0	▲4.0	▲8.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>